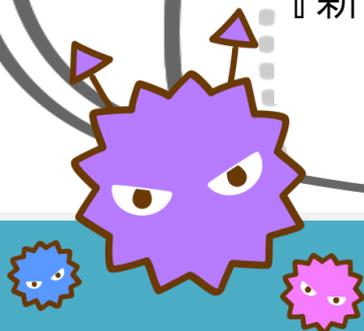


## 『新型コロナウイルス』について その2



初期対応を間違えなければ、“怖い病気”にはならないでしょう

### 症例報告

カナダからの報告で「重症化しなかったウイルス性肺炎例」が報告されています  
(Lancet online:2020/02/13)。

### 初期の重要な対処法

- 発熱・咳がみられた場合、必ず「酸素濃度」をチェックすべきです  
(重症化に至る可能性があります、焦る必要はありません)。

### 解説

病初期、肺のむくみ(肺水腫)が中心の「酸素濃度低下」は良く見られる現象です。  
お腹への負担(臍負荷)が原因かもしれませんので、「お腹(臍負荷)も意識した十分な安静」を講じる必要があります(初期・軽症のウイルス性肺炎治療には体力・免疫力の確保が重要です)。

### “その後”の自己防衛対策

- 細かな対応については前回お伝えしてあります。  
「お腹(臍負荷)も意識した十分な安静」がポイントですので、再確認願います。

前回の配信(新型コロナウイルスについて)過去配信等については、  
当クリニックの Home Page にて公開中です！ぜひご覧ください。

### 結論

体力・免疫力が確保されていれば、持病や年齢などに関係なく「新型コロナウイルス」も怖い病気にはなりません。“冷静な対応”をお願いいたします(今の“混乱”が早期に終息されますよう)。